

# 2020 年度 事業計画書

2020 年 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日

公益財団法人 理想教育財団

## 基本方針

文部科学省の小中学校学習指導要領では、児童・生徒の「生きる力」の育成、知識・技能の習得と、課題解決に必要な思考力・判断力・表現力等の育成、さらに道徳教育や体育などの充実による豊かな心や健やかな体の育成を基本方針としている。

理想教育財団は、学習指導要領に基づく「言語活動の充実」のため、児童・生徒の各教科における読解力や新聞教育等を通じた表現力・コミュニケーション力の育成を支援する。

また、健全な学校経営・学級経営の実現をめざし、学校・教師と児童・生徒、家庭、及び地域社会とのコミュニケーションの有用性を研究し、それらの活動に対し積極的な支援を行うことを基本方針とする。

## 【A】調査・研究事業

### A-1 学校情報伝達システムの調査・研究

1. 通信づくり講習会、新聞教育指導者講習会等、教師又は大学の教職課程の学生を対象とした講習会を開催する。
2. 学校における通信活動の教育効果についての調査・研究  
2015年から2018年にかけて実施した「学校における各種通信の実態と教育効果に関する調査・研究報告」に基づき、学校・学級における通信づくりへの新たな支援方法を研究する。

### A-2 教師による自作教材の調査・研究

学習プリントをカラー化することによる教育効果や視覚的效果などについて調査・研究をする。

### A-3 児童・生徒による創作表現活動の調査・研究

1. はがき新聞の教育効果に関する調査・研究
  - (1) コンパクトテキストによる文章表現力育成についての研究  
「はがき新聞」をコンパクトテキスト(短文章)と位置づけ、子どもたちの「考える力」「書く力」を高める具体的な方法として「はがき新聞づくり」を通じた教育を推奨し支援する。  
特に、主幹教科である国語科をはじめ、各教科において書く力を高める授業を支援する。  
また、今後の課題とされる「読解力向上」及び「語彙力向上」のため「言葉のポケット」等を活用しコンパクトテキストとの関連と教育効果について調査・研究をする。  
その他、「みんなが作ったはがき新聞百科」(2020.2月刊行)の授業運用方法の研究をする。
  - (2) 学級力向上プロジェクトとの連携での調査・研究・支援  
はがき新聞を活用した学級力向上実践事例の調査・研究をする。特に、特別活動や特別の教科 道徳と学級力向上プロジェクトとの連動を推進し、その活動を支援する。

## 2. はがき新聞の調査・研究の発表

### (1) 2020 年度 理想教育財団教育フォーラムの開催

#### 1) 第 13 回教育フォーラム

- ・日時: 2020 年 8 月 30 日(日) 13:00~17:00
- ・会場: 大阪府立国際会議場(グランキューブ大阪)
- ・対象: 全国の教育関係者及び財団関係者 250 名
- ・テーマ「未来を生き抜く子どもたちの資質・能力を高めるために」
- ・特別講演 東京工業大学 名誉教授 赤堀侃司 先生
- ・実践報告等 早稲田大学教職大学院教授 田中博之先生他

#### 2) 第 14 回教育フォーラム

- ・都合により延期とする。

### (2) 地域における小規模フォーラムの企画実施

- ・各地の教育機関と連携し、地域に根ざしたミニフォーラムを開催することにより、地域への情報提供を図る。

## 【B】情報提供事業

### B-1 教育関連出版物の刊行

「はがき新聞を使った授業づくり」の改訂作業(刊行は 21 年目標)

「語彙力指導辞典」(仮称)の企画・制作

既存刊行物の増刷、再編集等(古くなった刊行物等の WEB 化により、在庫削減を図る。)

### B-2 研究情報誌の発行

機関誌「季刊理想」の発行

「教育とコミュニケーションの研究情報誌」として発行し、小・中・高等学校、教育委員会など、教育関係者に配布する。

紙面の更なる充実と読み易さを考慮しページ構成の見直しを行う。

### B-3 ホームページの運用

財団事業の告知や活動報告、情報開示のほか、プリントコミュニケーション活動に役立つ情報の提供をさらに充実させる。

旧来の基本フレームを見易く・使い易く・簡潔な構成にリニューアルする。

## 【C】助成・顕彰事業

### C-1 後援・支援の事業

#### 1. 文化芸術教育の充実に関する事業への助成

各地の教育委員会が主催する、学校における文化芸術活動の発展・充実と、児童・生徒の健

全な育成を目的とする事業を支援する。

- 広島:文化の祭典支援、横浜:市立学校総合文化祭支援、京都:文化財取材コンクール支援他
2. その他、プリントコミュニケーション活動、コミュニケーション文化の発展に関わる事業に必要なに応じ助成・支援する。

## C-2 新聞教育の普及・振興

1. 第 70 回「全国小・中学校・PTA新聞コンクール」の後援

主催:毎日新聞社、全国新聞教育研究協議会 上位受賞校に対し、理想教育財団賞と副賞を提供する。

2. 第 63 回「全国新聞教育研究大会」千葉県大会の後援

3. 地域の新聞教育に対する支援

・「岩手県小・中学校新聞コンクール」「Chiba こども新聞コンクール」「きゅうでんはがき新聞コンクール」他、各地で開催されるコンクールを支援する。

## C-3 日本人学校等への支援・助成

1. 児童図書への寄贈

海外日本人学校(補習授業校を含む)10校に対し、1校あたり児童図書約40冊を寄贈する。

2. 海外・日本語教育及び途上国への教育支援

## C-4 コンクールの開催・顕彰

第16回「プリントコミュニケーションひろば」の審査結果発表は6月中旬、また表彰を7月初旬に行う。

第17回については、応募数の推移、今後のネットワークインフラの進化による通信事情の変化を見据え、コンセプトの再構築をした上で2021年新たに再出発を図る。

その他

- ・富安理事提案に基づく新規事業検討の件

東京大学 秋田喜代美教授、上智大学 田中治彦教授、日本女子大学 西村陽平名誉教授と富安理事の提言についての検討会は2020年4月以降開催を検討する。

以上